

本報告書における留意事項

本報告書における留意事項

地域がん登録・全国がん登録

1951年に我が国で初めて宮城を対象に地域がん登録が開始され、その後広島・長崎、愛知県、大阪府と続き、さらに1983年の老人保健法制定に伴い実施する地方自治体が増加した。栃木県は1993年に地域がん登録事業を開始した。その後がん対策基本法（2006年6月成立）より、がん対策推進基本計画（2007年6月閣議決定）を受けて重点的に取り組む課題としてがん登録が位置づけられたことにより、がん診療連携拠点病院を中心に院内がん登録が整備され地域がん登録の精度も向上した。2012年9月にはすべての都道府県で地域がん登録事業が開始した。また、2013年12月にはがん登録等の推進に関する法律が議員立法として成立し公布された。地域がん登録は全国規模で一斉に開始した事業ではなく、運営の主体は県であり各都道府県がそれぞれの目的に応じてさまざまな体制と方法で実施してきた経緯がある。そしてようやく2016年1月症例より施行された法律のもと国が主導で行う「全国がん登録」に移行した。2015年症例までは届け出が任意であったが、すべての病院と（第6条第2項による指定を受けた）診療所が罹患情報を届け出ることが義務となり、一部の県間を移動した届け出の問題も解消され、地域がん登録の最大の課題であった悉皆性が向上することが期待される。また、都道府県間で精度に差があり国の罹患数を高い精度の地域を用いて推定してきた経緯があるが、今後はすべての都道府県で標準化され同じシステムで登録することにより格差が解消され、都道府県の実罹患数からわが国の罹患数を求めていく方向となる。国の事業によって全国がん罹患モニタリング集計報告書（MCIJ）も発行年を早めるスケジュールを計画している。一方で本報告書は2015年症例のため栃木県地域がん登録報告書として従来と同じ方法で標準登録データベースシステムから集計した。地域がん登録としては最後の報告書となる。今後2016年症例からは全国がん登録システムから一律に集計され、報告書が発行される予定である。

栃木県地域がん登録における留意点

・開始当時の独自システム・精度向上による影響

地域がん登録の目的は、公衆衛生学的に、定義された集団において①罹患の把握、②受療状況（発見経緯、進展度、初回治療情報など）、③生存率の把握というがん対策のために必須となるがん統計をつくることである（Population based cancer registry）。もともとは県単位で整備されてきたが、高い登録精度の達成維持、がん対策に必要な統計の比較可能性のために標準化を厚生労働省に関連する国立がん研究センターがん対策情報センターを中心とした研究班（厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究班」）において推進してきた。こういった全国的な標準化の流れを受けて栃木県では、2006年11月より1年8か月をかけ、1993年から蓄積した約10万件のデータを標準データベースシステム（地域がん登録標準システム）に移行し、2008年度より標準化を導入した。2008年1月より登録票も県独自の登録票（P81）から標準登録票（P80）に変更し、情報を収集している。2008年症例からの情報は、届出票も標準対応したものであり、発見経緯および病期の区分を標準様式とした。2007年症例までの集計値とは分布が異なることによる統計値の解釈に注意が必要であるが、標準様式を用いた全国との比較および他県との比較が可能になっている。

栃木県地域がん登録として遡り調査を2005年症例より拠点病院を対象に開始し、2006年～2010年症例については拠点病院とがん診療連携協議会加入医療機関等の協力を得て実施した。2011年症例からはさらなる精度向上のため遡り調査協力機関を増やした。遡り調査とは、死亡票のみで補完登録された腫瘍を抽出し、死亡診断した医療機関に対して登録票と同じ様式による罹患情報の届出を依頼するものである。さらに2004年症例より生存確認調査を開始し、生存率の計算も可能となった。

県内医療機関の協力、標準化導入、遡り調査により2006年症例からDCO（死亡診断書の情報のみで登録されているがんの割合）が下がり全国がん罹患モニタリング集計においても栃木県地域がん登録は比較的精度の良い地域がん登録として全国推計値を算出するデータと

なった。2011年症例以降は全国推計の基準が厳しくなったが、栃木県は基準 A(IM 比 2.0 以上、DCN20% 未満、DCO10% 未満のすべてを満たす全国推計利用地域として算出する条件) を満たし全国集計 2013 年症例まで報告した。がん対策基本法や、がん診療連携拠点病院の整備にともなう院内がん登録の推進を受けて、県内の拠点病院を中心に届出数が急激に増加した。特に 2007 年症例以降、拠点病院は国立がん研究センターに院内がん登録症例を提出しなければならず、その結果罹患数が過去に比べて高く報告された。それは登録の悉皆性が増したことにより DCN (死亡診断書の情報で初めて把握されたがんの割合) が改善し、真の罹患値に近づいたためと考えられる (実際の増加ではなく、精度向上による見かけ上の増加)。過去の登録との比較においては真の増加かどうかの判断は慎重でなければならない。

ちなみに栃木県は、2013 年症例までは標準データベースシステムで固定後全国がん登録システム内の都道府県データベースに移行保存し、2014 年症例・2015 年症例については標準データベースシステムと全国がん登録システム内都道府県データベース両方で登録作業から集計を実行し、2016 年症例からは全国がん登録システムのみ運用とした。

・全国との罹患率比較

本報告書では、2015 年症例にもかかわらず、全国との罹患率の比較において 2012 年全国症例と比較した。前述のとおり全国的に地域がん登録から全国がん登録への移行期であり、多くの地域で全国がん登録システムに移行したことによる罹患数の変動が影響し 2013 年症例の全国集計が遅れ (最新年の報告)、国より留意点 (2013 年集計値算出には、全国がん登録のデータ処理方法を一部の都道府県で採用したことにより、一部の県では 2012 年のデータと比較して罹患数が増加し、一部の県では減少した) が示されたためである。全国がん登録による 2016 年症例以降は同じ方法で、同年の全国との比較を行う予定である。

・生存率の集計

本報告書は、第 3 部として生存率の結果を掲載した。1993 年地域がん登録開始以来、標準データベースシステムに移行するまでは予後を追跡する仕組みがなかったが、標準データベースシステム移行後の 2004 年症例からは全死亡票との照合と県内市町の協力を得て生存確認調査を開始することによって、生存率を計算することが可能になった。単年の集計では、部位や臨床進行度によっては症例数が少なくなってしまうことから、初めて生存率の集計を報告した 2012 年報告書では 2004 ~ 2008 年診断症例に対する生存率集計を報告した。本報告書では、2006 年 ~ 2010 年症例までの 5 年分を蓄積し生存率を算出した。

なお、生存率に関する全国集計は 3 年ごとに実施しており、2012 年度には 2003 ~ 2005 年、2015 年度には 2006 ~ 2008 年データを集計・公表した。栃木県において生存率は、2004 年症例から計算は可能であったが、2004 年、2005 年症例の精度が一定水準でなかったことから、全国集計には含まず参考値として報告書に掲載された。2006 ~ 2008 年生存率については全国集計に含まれた。

・世界のがん罹患および国際研究への貢献

五大陸のがん罹患 CI5-XI ~ 2008 年症例より掲載 (IARC: 国際がん研究機関)

<http://ci5.iarc.fr/CI5-XI/PDF/Asia/439201199.pdf>

国際研究として地域がん登録生存率データ (2006 年症例より) を CONCORD2・3 研究 (国際生存率比較研究) に提出し、2014 年 11 月及び 2018 年 1 月に Lancet 誌に掲載された。

栃木県地域がん登録届出票 秘

事務局 使用欄	受付番号	事務局
	受付年月日	
	NO.	

提出用		名称		診療科	届出医師名	
①医療機関						
②貴院患者 ID			④性別	⑤生年月日		
フリガナ			1 男 2 女 3 他	0 西暦 1 明治 2 大正 年 月 日 3 昭和 4 平成		
③姓・名	姓	名				
⑥住 所						
診 断 名	⑦ 左右 両側臓器のみ記載	1 右 2 左 3 両側		⑨病理診断名 詳細をお願いします		
	⑧ 部位* 臓器名と詳細部位	(例 胃U, 肺S2, など) 白血病は「骨髄」、悪性リンパ腫は「主病変の部位」を記載				
診 断 情 報*	⑩初発・再発	1 初発 2 再発・治療開始後 3 疑い例				
	⑪診断方法 (複数回答可)	1 原発巣の組織診 2 転移巣の組織診 3 細胞診 4 部位特異的腫瘍マーカー (AFPやPSAなど。CEAやCA19-9は部位特異的ではない) 5 臨床検査 (画像診断、内視鏡・体腔鏡・手術肉眼所見を含む) 6 臨床診断				
	⑫診断日	自施設 診断日	0 西暦 1 昭和 年 月 日 2 平成	診断日の優先順位は、診断方法1-3選択の場合は検体採取日、診断方法4-5選択の場合は検査日、診断方法6選択の場合は入院日、初診日		
		初回 診断日	0 西暦 1 昭和 年 月 日 2 平成	前医で診断された場合や再発・治療開始後の場合は、初めて診断された日が分かればご記入ください		
⑬発見経緯	1 がん検診 2 健診・人間ドック 3 他疾患の経過観察中 4 剖検 9 その他・不明(自覚症状も含む)					
病 期 <small>・手術施行の場合 術後評価を優先 ・術前・放射線治療 後手術の場合は 術前評価を優先</small>	⑭病巣の 拡がり	0 上皮内 1 限局 2 所属リンパ節転移 3 隣接臓器浸潤 4 遠隔転移 9 不明				
	⑮UICC TNM*	T	N	M	ステージ	
	⑯その他	深達度、腫瘍径など病巣の拡がりの判定に役立つ情報があれば、ご記入ください。				
治 療 法* <small>初回の一連の治療 についてすべてご 記入ください。</small>	⑰観血的治療	1 手術	1 有 2 無			
		2 体腔鏡的(胸腔鏡・腹腔鏡)	1 有 2 無			
		3 内視鏡的	1 有 2 無			
		上記治療を総合した治療結果	1 治癒切除 2 非治癒切除 3 治癒度不明 4 姑息・対症療法 9 不詳			
	⑱その他の 治療	1 放射線	1 有 2 無			
		2 化学療法	1 有 2 無			
3 免疫療法 4 内分泌療法 9 その他		1 有 2 無				
⑲死亡年月日	0 西暦 年 月 日 1 平成					
自由記載欄						

◇記入にあたり、不明点や疑問点は栃木県地域がん登録室 (TEL・FAX 028-645-9592) までおたずねください
 なお、登録室への連絡事項(届出票・封筒の補充等)がありましたら、右欄に記入願います。(07.11)

届出票	10件分綴り	冊	届出用封筒	大	枚
届出票	20件分綴り	冊	届出用封筒	小	枚
届出票	50件分綴り	冊			
その他	[]				

(旧)栃木県地域がん登録届出票

提出用		栃木県地域がん登録 届出票		貴院カルテ No	
届出施設	所在地： 施設名：			届出医師名	
フリガナ 患者氏名	男 女	生年 月 日	明大 昭平 (西暦)	年 月 日	年齢 歳
住 所				出生地	
来院経緯	1 直接 2 他院から転院 (紹介：1 有 施設名 2 無) 3 検診 (老人保健法・職場検診・人間ドック・その他) 4 他疾患診療中 5 その他			自覚症状 1 有 2 無	
診断名 (部位)				組織診断	
初発再発 の区分	1 初発 (1 確定 2 疑診) 2 再発 (1 確定 2 疑診) 3 不明		再発患者の初発時治療 (初発再発の区分で 再発 を選んだ場合のみ記入) 1 入院 (1 有 2 無 3 不明) 2 手術 (1 有 2 無 3 不明) 3 放治 (1 有 2 無 3 不明) 4 化療 (1 有 2 無 3 不明) 5 その他 (1 有 2 無 3 不明) []		
原発続発 の区分	1 原発 2 続発 3 不明		治療開始日：昭・平 年 月 日 [施設名：]		
進行度	1 上皮内 2 早期 3 限局性 4 隣接臓器浸潤 5 所属リンパ節転移 6 遠隔転移 7 進行度分類不能 8 不明				
初診日	昭・平 年 月 日		診断日	昭・平 年 月 日	
検査内容	1 X線 2 内視鏡 3 超音波 4 CT 5 RI 6 腫瘍マーカー 7 細胞診 8 組織診 9 その他				
多重がん	1 有 2 無 (注)多重がんの場合は、個々のがん毎に登録票を作成して下さい。				
治療の 種類	01 手術 (1 有 2 無) 02 放治 (1 有 2 無) 03 化療 (1 有 2 無) 04 ホルモン (1 有 2 無) 05 免疫 (1 有 2 無) 06 TAE (1 有 2 無) 07 アルコール (1 有 2 無) 08 温熱 (1 有 2 無) 09 レーザー (1 有 2 無) 10 内鏡 (1 有 2 無) 11 その他 []				
治療開始	昭・平 年 月 日		手術日	昭・平 年 月 日	
治療の 達成度	1 病巣切除 (1 根治的 2 非根治的 3 その他) 2 病巣非切除 (1 吻合 2 単開 3 その他) 3 放射線治療 (1 根治的 2 非根治的 3 その他) 4 化学療法 (1 根治的 2 非根治的 3 その他)				
入院有無	1 有 2 無	貴院指示	1 貴院で加療中 2 他院へ紹介 (施設名：)		
死亡情報	死亡日：平 年 月 日		死因：1 原病死 2 他死因 ()		剖検：1 有 2 無
受付日	平成 年 月 日	登録の有無	1 新規登録 2 登録済 (登録番号：)		
◇記入にあたり、不明点や疑問点は栃木県地域がん登録室 (TEL・FAX 028-645-9592) までおたずねください。なお、登録室への連絡事項 (届出票・封筒の補充等) が、ありましたら、右欄に記入願います。			届出票 届出用封筒 (大) (小) その他 []		冊 枚 枚 } 送付希望
(04.03)					